

日本ジャージー登録協会通常総会 概要

令和5年度に視察交流会開催予定

日本ジャージー登録協会（高村祝次会長）は去る5月27日、新型コロナウイルス感染予防対策のため、第77回理事会並びに第66回通常総会を書面決議により開催し、令和3年度の事業報告及び収支決算報告を承認したほか、令和3年度の事業計画案及び収支予算案の議案のすべてを原案のとおり可決承認した。

第77回理事会では、①第16回全日本ホルスタイン共進会の経過報告、②登録取扱団体の変更、③日本ジャージー登録協会のホームページ改修について報告があった。

協議事項については、登録普及に関する助成規程の一部改正について、ジャージー視察研修会について協議をして、異議なく承認された。このうち、ジャージー視察交流会については、令和5年度に北海道で開催することを計画。令和4年度中に計画立案と関係団体と調整することとした。

第66回通常総会では、第1号議案の(1)令和3年度事業報告について概要報告が行わられた後、異議なく了承された。令和3年度会員数は一年会員275名、終身会員24名、合計299名で前年比116.8%、血統登録頭数は雌1,662頭、雄1頭で、特に雌については前年比110%と増加。北海道と岩手県が前年度よりも多く登録されていた。審査成績証明は、牛群審査14戸113頭、個体審査40頭でそれぞれ前年度対比120%以上の結果となった。前年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、特に都府県では体型審査の中止や延期が多く審査頭数は激減したが、3年度は中止等が少なかったことから増加に転じた。検定成績証明も牛群269件で、前年度を大幅に上回った。

次に第1号議案の(2)令和3年度収支決算報告では、収入計790万4,071円で、会費収入は予算対比116%、血統登録収入は予算対比で113%と増加した。一方、支出計は605万2,648円にとどまり、当期収支差額は185万1,423円で、予算額を121万423円上回った。

収支決算書決算監査については、監査から「適正である」との報告が行われ、協議の結果、原案のとおり承認された。

第2号議案の(1)令和4年度事業計画案については、原案のとおり承認された。

ジャージー種の血統登録申込見込頭数は1,541頭で、前年度の実績より121頭少ない頭数で計画。これは過去数年間の血統登録実績を参考に算出している。審査成績証明は前年度より増、検定証明は前年度より減で計画した。また、視察交流会については、令和5年度に開催できるよう準備をする。

第2号議案の(2)令和4年度収支予算案では、血統登録頭数・審査成績証明・検定成績証明それぞれの件数に沿って予算を計上した結果、収入合計は722万1,000円となり、前年度対比41万1,000円の増を見込む。支出合計は644万円となり、前年度対比27万1,000円増を見込んだ。令和4年度の当期収支差額は78万1,000円で、繰越収支差額円を加算した次期繰越収支差額は1,142万4,828円を見込むことで、原案のとおり承認された。

全国ジャージー酪農振興協議会総会 概要

登録協会の通常総会に引き続き、全国ジャージー酪農振興協議会（加藤賢一委員長）の第49回委員会・第45回総会が書面決議により開催された。

第49回委員会では、第45回総会付議事項として、第45回総会に切替え開催した。

第1号議案の(1)令和3年度事業報告では、令和3年度会員数は団体会員3団体（北海道・岡山県・熊本県：増減なし）、個人会員8名（増減なし）、賛助会員2団体（群馬県、山梨県：増減なし）であった。2022年分ジャージー手帳を登録協会とともに制作し、ジャージー専任の登録委員並びに関係者に配布した。また、当協議会が造成したジャージー種雄牛「スイトン JW ミスター チーフ」の娘牛に係る遺伝的能力評価の調査等を調査した。第1号議案の(2)令和3年度収支決算報告について、原案のとおり承認された。

次に、第2号議案(1)令和4年度事業計画案について、原案のとおり承認された。優良ジャージーの普及推進を図るために、様々な対応と検討する。視察交流会の開催に向け、日本ジャージー登録協会と共同で検討する。また、酪農雑誌に広告掲載等を行い、引き続き会員拡大に努める。

第2号議案(2)令和4年度収支予算案、(3)会費案について、原案のとおり承認された。